

生活指導部会

林 生信

子ども、学校はどうなっているか？

東京の子どもたちの状況を

生活指導部会では、「東京の子どもたち、学校がどうなっているのか」を追いかけてきました。全ての地区から、子どもたちの状況が届けられたら、東京の教育状況が把握でき、行政の問題点が明らかになっていきます。また、子どもたちが生活している学校の状況もつかむことができますようになります。

はじめ、校内暴力などの問題も交流の中で明らかになっていくはずですが、しかし、残念ながら各支部・各地区のなかでさえつかめないという実情があります。私たちの部会では、なぜ情報が集まらないのかということを考えています。以前、非行や校内暴力で学校が荒れた時期に、各地区で集会が開かれ、実情の交流がな

され、その対策に多くの教職員が奔走した経験もあります。「はじめ問題」が吹き荒れたときにも、集会を開き情報交流を行うなどの動きもしました。このような経験に学びながら、私たちの部会では、現在の東京の子どもたち、学校の状況をつかもうと努力をしています。

子どもたちをつかもう

部会では、学級での実践を報告してもらっています。報告者がとらえた事実そのまま話してもらいます。「交流」というところからスタートして、それらの話の中から子どもたちの生活や活動を読み解くようにしています。

いま、「子どもの声をきこう」と言われていますが、「帰って、だれと遊ぶの？」と聞いて、友だち関係をつかみ、「どこ

で遊ぶの？」と聞いて、遊びの範囲や内容をつかんでいくのです。遊ぶ姿を見に行くためにも、子どもに聞かなければ何も把握できないからです。また、休み時間や放課後などの(授業中もありますが)子どもと話が出来るときに、「今日の授業、どうだった?」「いやなことない?」と聞くだけで、子どもたちは様々な感想や思いを語ってくれます。その話の中から出てくる「願い・要求」をつかむことを「子どもの声を聞く」と言うのです。子どもの「願い・要求」に応えるように努力していくことを求めているテーマなのです。そういう意味で、現場の多忙さは、子どもたちの成長を保障する教育の世界ではないと断言できます。

困っていることを話して

部会に来て、困っていることの話をしてみて下さい。困ることばかりの現場です。少しでも解決できるようにみんなで交流していきます。部会のドアをたたいてみて下さい。

(共同研究者)